

近畿作物・育種研究会 第200回例会講演プログラム

開催日：令和8年7月11日（土）

場 所：キャンパスプラザ京都 第1講義室（5階）

12:45-13:15 評議員会（第2講習室、6F）、シンポジウム委員会（第5講習室、6F）

13:15-13:45 総会

13:50-15:05 一般講演（発表12分、質疑応答3分）座長：荒木良一（和歌山大学）

☆① ○川並清華¹・寺本翔太²・吉川貴徳³・谷坂隆俊³・種坂英次¹・築山拓司¹

（¹近大農、²近大生物理工、³京大院農）

宿主によるイネ転移因子*Ping*の発現抑制機構の解析

☆② ○武田昇真¹・寺本翔太²・堀端章^{1,2}（¹近大院生物理工、²近大生物理工）

登熟期の気温が酒米品種の心白発現率に及ぼす影響に関する一考察

☆③ ○高橋孝範¹・金田真帆²・寺本翔太²・堀端章^{1,2}（¹近大院生物理工、²近大生物理工）

アカシソ葉の収穫後に観察された機能性成分ロスマリン酸の顕著な増加

☆④ ○Jin Yuxin¹・大江真道¹・松村篤²・佐藤匠³（¹大公大院農、²龍谷大農、³不二製油株式会社）

汚泥堆肥へのカリウムおよび大豆ホエイ添加がジャガイモ収量に及ぼす影響

☆⑤ ○井村友信¹・藤野優輝¹・築山拓司¹・村端公介²・種坂英次¹（¹近畿大農、²JA中野）

FDS抗体を用いたエノキタケ子実体形成不全株の早期検出

15:05-15:15 休憩

15:15-16:00 一般講演（発表12分、質疑応答3分）座長：大江真道（大公大院農）

⑥ 竹生敏幸¹・○谷坂隆俊²（¹（株）東亜研究所、²京都大学）

低投入持続型農業は土壌微生物叢活性剤‘Takeo-Tanisaka液’の利用によって実現可能である

⑦ ○丸田信宏¹・多田光史^{1,2}・白岩立彦¹（¹認定NPO法人 無施肥無農薬栽培調査研究会、²京大院農）

長期無施肥無農薬栽培水稻の生育・収量・品質の特徴

⑧ ○家田善太¹・多田光史^{1,2}・白岩立彦¹（¹認定NPO法人 無施肥無農薬栽培調査研究会、²京大院農）

長期無施肥無農薬栽培水田における冬期湛水・中干しの有無が生育および収量に及ぼす影響

16:00-16:10 休憩

16:10-18:10 記念講演（発表20分、質疑応答5分）座長：横井修司（大公大院農）、堀端章（近大生物理工）

① 白岩立彦（京都大学名誉教授、認定NPO法人 無施肥無農薬栽培調査研究会）

これまでの作物学

② 谷坂隆俊（京都大学名誉教授）

これまでの育種学

③ 本間香貴（日本作物学会会長、東北大学大学院農学研究科）

これからの作物学

④ 福岡浩之（日本育種学会会長、タキイ種苗株式会社）

これからの育種学

18:10-18:15 優秀発表賞表彰式

18:15-18:20 閉会の辞

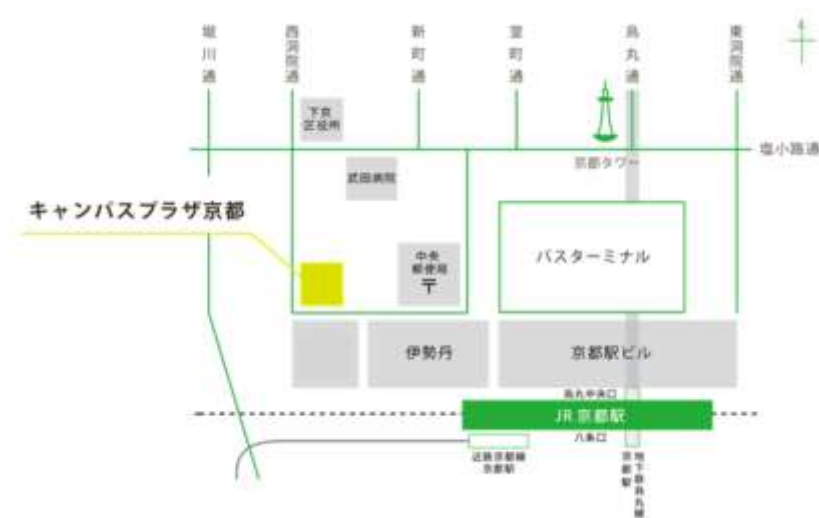
18:30-20:30 記念祝賀会（キャンパスプラザ京都 2階ホール）

（☆：優秀発表賞エントリー課題、○：発表者）

<会場案内> キャンパスプラザ京都（[アクセス | 公益財団法人 大学コンソーシアム京都](#)）

（〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル東塩小路町939）

京都市営地下鉄烏丸線、近鉄京都線、JR各線「京都駅」下車。徒歩5分。



<問合せ先>

松村 篤（近畿作物・育種研究会庶務幹事）

TEL: 077-599-5698

Email: matsumura20@agr.ryukoku.ac.jp